



## オペレーティング システムのインストール

無人のオペレーティング システムのインストール機能は、Microsoft Windows および RedHat Linux オペレーティング システムのインストールに役立ちます。UCS-SCU には、RAID ドライバを含むデバイス ドライバが組み込まれており、追加のドライバ ロード手順や、USB などのデバイスを使用せずに、サポートされる RAID 論理アレイにオペレーティング システムをインストールすることができます。

UCS-SCU は、仮想ディスク上でのみのオペレーティング システムのインストールと、AHCI モードのソリッドステート ディスク (SSD) をサポートします。物理ディスクでのインストールはサポートされていません。UCS-SCU でサポートされているすべてのオペレーティング システムは、Windows、Linux および RHEL という 3 つのグループに分類されます。



(注)

オペレーティング システムのインストールを開始する前に、ウォッチドッグ タイマーを無効にしてください。この機能がイネーブルで、値が OS のインストールに必要な時間よりも小さい期間に設定されていると、オペレーティング システムのインストール プロセスは中断されます。このウォッチドッグ タイマー機能は、指定された期間後に自動的にサーバをリブートするか、電源をオフにします。

オペレーティング システムをインストールするには、次の 2 つの方法があります。

- [ESXi Install \(6-1 ページ\)](#) : カスタマイズ設定を使用してオペレーティング システムをインストールするには、[ESXi Install] オプションを使用します。
- [高速インストール \(6-4 ページ\)](#) : デフォルト設定を使用してオペレーティング システムをインストールするには、[Quick Install] オプションを使用します。
- [カスタム インストール \(6-7 ページ\)](#) : オペレーティング システムをインストールする前にデフォルト設定を変更するには、[Custom Install] オプションを使用します。

## ESXi Install

[ESXi Install] オプションでは、オペレーティング システムをインストールしてデフォルト設定をカスタマイズできます。

**ステップ 1** オペレーティング システムの無人インストールの機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで [OS Install] をクリックします。

[OS Install] ページが表示されます。

**ステップ 2** [ESXi] オプション ボタンをクリックし、[Operating System] ドロップダウン リストから ESXi のバージョンを選択します。

[Edition] ドロップダウン リストが表示されます。

ステップ 3 [Next] をクリックします。

選択した ESXi バージョンの [OS Install] ページが表示されます。

## 基本設定

基本的な設定を行うには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Basic Configuration] 領域で、次を実行します。

- a. [Root Password] フィールドに、ルート パスワードを入力します。
- b. [Confirm Root Password] フィールドに、ルート パスワードを再入力します。
- c. [Media Type] ドロップダウン リストから、OS をインストールするディスクを選択します。次のいずれかになります。




(注) SCU のブート中に検出されたディスクは、[Media Type] に一覧表示されます。

- [Local Disk]: ターゲット サーバで使用可能なローカル HDD を示します。
- [SAN Disk]: 次の SAN ディスクが ESXi のインストールでサポートされます。
  - [Remote Disk]: ターゲット サーバに割り当てられた SAN ベースの FCoE ディスクを示します。
  - [iSCSI Disk]: これはターゲット サーバで設定された SAN ベースの iSCSI ディスクを示します。このオプションを選択した場合、次のパラメータを確認し、更新してください。

表 6-1 iSCSI パラメータ

パラメータ	説明
[iSCSI Target Address] フィールド	IPv4 アドレスのみをサポートします。
[Interface Name] ドロップダウン リスト	iSCSI が有効なインターフェイスを一覧表示します。  iSCSI ターゲットに到達可能なインターフェイスを選択する必要があります。前提条件として、選択したインターフェイスのオプション ROM は iSCSI の詳細によってあらかじめ設定しておく必要があります。
[Initiator IP address] フィールド	イニシエータ IP アドレスを入力します。  この IP アドレスは、選択したインターフェイスにバインドされ、iSCSI 操作に使用されます。
[Subnet Mask] フィールド	イニシエータ IP のサブネット マスク。
[Gateway IP] フィールド	ゲートウェイ IP アドレス。

パラメータ	説明
[IQN Name] フィールド	<p>イニシエータ IQN 名を入力できます。ACL が特定の IQN 名との接続を必須としている場合に必要です。</p> <p> (注) 値が空白のままだと、自動生成された IQN 名が使用されます。</p> <p> (注) IQN 名はベンダーのターゲット コンフィギュレーションに応じて必要な場合があります。</p>
[CHAP Username] フィールド	ターゲット ACL が CHAP を有効にし、CHAP クレデンシャルからのアクセスを義務付けている場合に必要です。
[CHAP Password] フィールド	ターゲット ACL が CHAP を有効にし、CHAP クレデンシャルからのアクセスを義務付けている場合に必要です。



(注) iSCSI ディスクは、[Media Type] 下に常に一覧表示されています。OS のインストールに iSCSI ディスクを選択すると、iSCSI ターゲットを検出するために必要な入力フィールドを入力する必要があります。iSCSI ターゲットを検出するには、[Get Disks] ボタンをクリックします。



(注) CMC で iSCSI パラメータを設定する場合は、プライマリ ターゲットに対する値のみを設定し、セカンダリ ターゲット値を空白のままにします。セカンダリ ターゲットを設定すると、ESXi のインストールは失敗します。



(注) iSCSI ソフトウェア ターゲットでの ESXi のインストールは、SCU 経由でサポートされません。

d. [Select Disk] ドロップダウン リストから、OS をインストールするディスクを選択します。

## ネットワーク設定

ネットワーク設定では、インストール時にオペレーティングシステムによって検出されるオンボード ネットワーク アダプタのネットワーク設定値を入力することができます。これらの設定は、CMC のネットワーク設定に影響を与えません。オペレーティングシステムと CMC に異なる IP アドレスを設定することを推奨します。UCS-SCU で検出された各ネットワーク アダプタがネットワーク インターフェイス カラムに一覧表示されます。使用するオペレーティングシステムによって、オペレーティングシステムをインストールした後に、インターフェイス名が異なる場合があります。



(注)

アクティブなネットワークのうち 1 つだけを設定する必要があり、このネットワーク インターフェイスが ESXi 管理ネットワークになります。

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1** [Network Settings] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
- [Network Settings] ウィンドウに、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、リンク ステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。
- ステップ 2** ネットワーク設定を編集するには、次を実行します。
- a. ネットワーク インターフェイスを選択し、[Edit] をクリックします。  
[Network Settings] ダイアログ ボックスが表示されます。
  - b. [Network Settings] ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。
    - [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。[Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。
      - [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
      - [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
      - [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
      - [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
- [OK] をクリックします。

## 他の OS のインストール

### 高速インストール

[Quick Install] オプションでは、デフォルト パラメータを使用してオペレーティング システムをすばやくインストールできます。ターゲット OS に応じたデフォルト パラメータを示す [OS Install] ページを表示できます。高速インストールはユーザ入力が必要としない方法であり、ワンクリックでオペレーティング システムをインストールする方法です。

OS の高速インストールを実行するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** オペレーティング システムの無人インストールの機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで [OS Install] をクリックします。
- [OS Install] ページが表示されます。
- ステップ 2** オペレーティング システムのオプション ボタンのいずれかをクリックします。
- ステップ 3** [Operating System] ドロップダウン リストから、オペレーティング システムのバージョンを選択します。
- ステップ 4** (Windows の場合) [Edition] ドロップダウン リストから、オペレーティング システムのエディションを選択します。
- [Default Settings] 領域と、[Quick Install] および [Custom Install] ボタンが表示されます。

表 6-2 に、Windows オペレーティングシステムの [Default Settings] 領域に表示されるデフォルトパラメータを示します。

表 6-2 デフォルトのパラメータ (Windows の場合)

パラメータ	デフォルト値
Time Zone	Central American Standard Time
名前	admin
マニュアルの構成	マニュアルの構成
コンピュータ名	コンピュータ
ネットワーク	DHCP
Work Group Name	WORKGROUP
ドライバ	すべてのドライバが SCU のブート メディアからインストールされます
ファイアウォール	ディセーブル
RDP	ディセーブル
<b>Disk Details</b>	
Disk Name	LSI
ディスク サイズ	40 GB 以上
<b>Partition Details</b>	
Drive Letter	C
ファイル システム	NTFS
Size (MB)	論理ディスクによって異なります

表 6-3 に、Red Hat Enterprise Linux OS の [Default Settings] 領域に表示されるデフォルトパラメータを示します。

表 6-3 デフォルトパラメータ (Red Hat Enterprise Linux 用)

パラメータ	デフォルト値
Time Zone	America/New_York
名前	root
Default Password	password
ネットワーク	DHCP
ドライバ	すべてのドライバが SCU のブート メディアからインストールされます
<b>Disk Details</b>	
Disk Name	LSI
ディスク サイズ	論理ディスクによって異なります
<b>Partition Details</b>	
Drive Letter	
ファイル システム	ext3
Size (MB)	論理ディスクによって異なります

表 6-3 デフォルトパラメータ (Red Hat Enterprise Linux 用) (続き)

パラメータ	デフォルト値
Drive Letter	
ファイル システム	linux-swap
Size (MB)	2048

表 6-4 に、SUSE Linux Enterprise Server (SLES) OS の [Default Settings] 領域に表示されるデフォルトパラメータを示します。

表 6-4 デフォルトのパラメータ (SLES の場合)

パラメータ	デフォルト値
Time Zone	America/New_York
名前	root
Default Password	password
ネットワーク	DHCP
ドライバ	すべてのドライバが SCU のブートメディアからインストールされます
<b>Disk Details</b>	
Disk Name	LSI0-Logical Vol-2
ディスク サイズ	論理ディスクによって異なります
<b>Partition Details</b>	
Drive Letter	/
ファイル システム	ext3
Size (MB)	論理ディスクによって異なります
Drive Letter	swap
ファイル システム	linux-swap
Size (MB)	2048 以上

ステップ 5 インストールを完了するために、[Quick Install] をクリックします。  
実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。



(注) オペレーティングシステムをインストールする前に論理ディスクが作成されていることを確認します。論理ディスクがない場合、次のようになります。

- ディスクの詳細が [Default Settings] 領域の下に表示されません
- [Quick Install] および [Custom Install] ボタンが表示されません
- 次の警告メッセージが表示されます。

OS Installation cannot be done as no logical disks found in the system. RAID 設定を使用して論理ディスクを作成してください。

## カスタム インストール

[Custom Install] オプションでは、デフォルト設定をカスタマイズできます。



(注)

パラメータが変更されない場合、カスタム インストールはデフォルト パラメータを使用して実行されます。表 6-2 および表 6-3 に、Windows および Red Hat Enterprise Linux オペレーティングシステムのデフォルト パラメータと、SCU ブート メディアからのドライバのダウンロードを示します。

ここでは、次のオペレーティング システムのカスタム インストール手順について説明します。

- [Windows Server オペレーティング システムのインストール\(6-7ページ\)](#)
- [Linux Server Series オペレーティング システムのインストール\(6-13ページ\)](#)
- [SUSE Linux サーバ オペレーティング システムのインストール\(6-14ページ\)](#)

## Windows Server オペレーティング システムのインストール

Windows Server オペレーティング システムを無人インストールするには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** オペレーティング システムの無人インストールの機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで [OS Install] をクリックします。[OS Install] ページが表示されます。

**ステップ 2** [Windows] オプション ボタンをクリックし、[Operating System] ドロップダウン リストからオペレーティング システムを選択します。

[Edition] ドロップダウン リストが表示されます。

**ステップ 3** [Edition] ドロップダウン リストから、エディションを選択します。

[Default Settings] 領域と、[Quick Install] および [Custom Install] ボタンが表示されます。



(注) ドロップダウン リストの [Windows Server 2008 R2] オプションは、Windows Server 2008 R2 と Windows Server 2008 R2 SP1 で同じです。使用するインストール CD に応じて (Win2k8 R2 または Win2k8R2 SP1)、対応する Windows OS バージョンがインストールされます。

**ステップ 4** [Custom Install] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。新しい [OS Install] ページが、次の折りたたみ可能ウィンドウのリストとともに表示されます。

- [Personalization] : パーソナライズ設定を実行するには、[パーソナライズ \(6-8 ページ\)](#) に進みます。
- [Installation Partitions] : インストールのパーティションを設定するには、[インストールパーティション \(6-8 ページ\)](#) に進みます。
- [Network Settings] : ネットワークを設定するには、[ネットワーク設定 \(6-9 ページ\)](#) に進みます。
- [Installation Drivers] : ドライバを設定するには、[インストール ドライバ \(6-10 ページ\)](#) に進みます。

**ステップ 5** [Install] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。UCS-SCU CD を取り出し、必要なオペレーティングシステム CD を挿入するように要求する、[OS Install] ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 6** オペレーティングシステム CD を挿入し、[Ok] をクリックします。

システムがリブートし、オペレーティングシステムのインストールが開始されます。

## パーソナライズ

パーソナライズ設定を行うには、次の手順に従ってください。

**ステップ 1** 対応するウィンドウを開くには、[Personalization] をクリックします。

**ステップ 2** [Personalization] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a. [Time Zone] ドロップダウン リストから、時間帯を選択します。
- b. [Name] フィールドに、管理者の名前を入力します。最大文字数は 20 文字です。
- c. [Organization] フィールドに、管理者の組織名を入力します。最大文字数は 15 文字です。
- d. ライセンスをアクティブ化する必要がある場合は、[License Information] オプション ボタンのうちの 1 つを選択し、25 文字のプロダクト キーを入力します。
- e. [Computer Name] フィールドに、サーバの名前を入力します。最大文字数は 15 文字です。
- f. [Description] フィールドに、サーバの説明を入力します。最大文字数は 25 文字です。

## インストールパーティション

インストール パーティションを設定するには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** 対応するウィンドウを開くために [Installation Partitions] をクリックします。

**ステップ 2** [Installation Partitions] ウィンドウで、次の手順を実行します。

- a. [Select Disk] ドロップダウン リストで、論理パーティションを作成するディスクを選択します。
- b. 対応するパーティションの詳細を表示するためにディスクの名前をクリックします。  
ディスク エントリが展開され、パーティション名、ドライブ文字、ファイル システム、使用されている領域 (MB 単位) が表示されます。
- c. パーティションを編集するには、次の手順を実行します。
  - 編集するパーティションを選択し、[Edit] をクリックします。  
[Edit Partition] ダイアログボックスが表示されます。
  - [Edit Partition] ダイアログボックスで、次を実行します。
    - [Drive Letter] ドロップダウン リストから、ドライブを選択します。
    - [Size] テキスト フィールドに、パーティション サイズを入力します。





(注) サイズは使用できるディスク容量を超えてはなりません。

- [File system] ドロップダウン リストから、ファイル システムを選択します。
  - [OK] をクリックして変更を保存します。
- d. 新しいパーティションを作成するには、次を実行します。
- 空き領域を選択し、[New] をクリックします。  
[Create Partition] ダイアログボックスが表示されます。
  - [Create Partition] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
    - [Driver Letter] ドロップダウン リストから、ドライブを選択します。
    - [Size] フィールドで、ディスク サイズを編集します。



(注) サイズは使用できるディスク容量を超えてはなりません。

- [File System] ドロップダウン リストから、ファイル システムを選択します。
  - [OK] をクリックします。
- e. パーティションを削除するには、次の手順を実行します。
- 削除するパーティションを選択し、[Delete] をクリックします。  
[OS Install] ダイアログボックスが表示されます。
  - パーティションを削除する場合は [Yes] をクリックします。



(注) Red Hat Enterprise Linux では、ルートおよびスワップ パーティションが必要です。パーティション作成プロセス中でサイズを指定しないと、UCS-SCU はアラートメッセージを生成して、別のパーティション設定を推奨します。Linux のパーティションについて習熟していない場合は、これを受け入れます。

## ネットワーク設定

ネットワーク設定では、インストール時にオペレーティングシステムによって検出されるオンボード ネットワーク アダプタのネットワーク設定値を入力することができます。これらの設定は、CMC のネットワーク設定に影響を与えません。オペレーティングシステムと CMC に異なる IP アドレスを設定することを推奨します。UCS-SCU で検出された各ネットワーク アダプタがネットワーク インターフェイス カラムに一覧表示されます。使用するオペレーティングシステムによって、オペレーティングシステムをインストールした後に、インターフェイス名が異なる場合があります。

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

**ステップ 1** [Network Settings] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

[Network Settings] ウィンドウに、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、リンク ステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。

ステップ 2 [Network Mapping] ウィンドウで、次を実行します。

- a. [Work Group] または [Network Domain] 領域で、次のいずれかのオプションを選択します。
  - ネットワークまたはドメインを追加する必要がない場合は、[No network] または [No domain] オプション ボタンを選択します。[Work Group Name] フィールドにワーク グループ名を入力します。最大文字数は 20 文字です。
  - [Join this Domain] オプション ボタンを選択し、次を実行します。
    - [Domain Name] テキスト フィールドに、ドメインの名前を入力します。最大文字数は 20 文字です。
    - [Domain Username] に、ドメインのユーザ名を入力します。最大文字数は 20 文字です。
    - [Domain password] ドメイン パスワードで、ドメインのパスワードを入力します。最大文字数は 20 文字です。
- b. リモート アクセス設定の [Enable Remote Access (RDP)] オプション ボタンを選択または選択解除します。
- c. ファイアウォール設定の [Disable Firewall] オプション ボタンを選択または選択解除します。
- d. [DNS Suffix/Domain] フィールドに、ドメインの DNS サフィックスを指定します。最大文字数は 25 文字です。
- e. [DNS Suffix Search Order 1] フィールドに、DNS サフィックスの検索順序を入力します。最大文字数は 25 文字です。
- f. [DNS Suffix Search Order 2] フィールドに、もう 1 つの DNS サフィックスの検索順序を入力します。最大文字数は 25 文字です。
- g. [Proxy Address] フィールドに、プロキシ サーバの IP アドレスまたは名前を入力します。最大文字数は 30 文字です。
- h. [Port] フィールドに、プロキシ サーバのポート番号を入力します。最大文字数は 5 文字です。
- i. 次の操作を実行して、ネットワーク設定を編集します。
  - ネットワーク インターフェイスを選択し、[Edit] をクリックします。  
[Network Settings] ダイアログボックスが表示されます。
  - [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。[Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。
    - [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
    - [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
    - [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
    - [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
    - [OK] をクリックします。

## インストール ドライバ

UCS-SCU は、ドライバのソースからダウンロードされる使用可能なすべてのドライバを表示します。インストールしないドライバを選択解除します。RAID ボリュームにオペレーティング システムをインストールする場合は、適切な RAID コントローラ用のドライバを選択します。

インストール ドライバを設定するには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** [Installation Drivers] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

**ステップ 2** [Choose Drivers to Install] テーブルから、インストールするドライバを選択します。

ドライバが [Choose Drivers to Install] テーブルにない場合は、[Installation Drivers] ツールバーを使用してドライバをダウンロードします。ドライバをダウンロードするには、次のいずれかのオプションを選択します。

- [Cisco.com からのダウンロード \(6-11 ページ\)](#)
- [SCU ブートメディアからのダウンロード \(6-11 ページ\)](#)
- [ネットワーク共有からのダウンロード \(6-12 ページ\)](#)
- [USB からのダウンロード \(6-12 ページ\)](#)

### Cisco.com からのダウンロード

Cisco サポート Web サイトから最新のドライバをダウンロードするには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** ツールバーの [From Cisco.com] をクリックします。



(注) ダウンロード中に、サーバが1つのネットワークだけに接続されていることを確認します。

ネットワークが設定されていない場合や、ユーザの資格情報が入力されていない場合は、[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークが設定されている場合や、ユーザの資格情報が入力されている場合は、[Select Device Packages] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、[ステップ 2](#)に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、[ステップ 3](#)に進みます。

**ステップ 2** [Network Configuration] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- a. ネットワークを設定するには、IP アドレスを入力します。設定のネットワークについての詳細については、「[ネットワークの設定](#)」セクション (3-4 ページ) を参照してください。
- b. [User Name] フィールドに、cisco.com のユーザ名を入力します。最大文字数は 45 文字です。
- c. [Password] フィールドに、cisco.com のパスワードを入力します。最大文字数は 45 文字です。

**ステップ 3** [Select Device Packages] ダイアログボックスで、必要なドライバパッケージを選択し、[OK] をクリックします。

進捗メッセージが表示され、[Choose Drivers to Install] テーブルにドライバのリストが設定されます。

### SCU ブートメディアからのダウンロード

Tools and Drivers CD に格納されているドライバパッケージを直接使用するには、この手順を実行します。

**ステップ 1** ツールバーの [From SCU Boot media] をクリックします。

進捗メッセージが表示され、[Choose Drivers to Install] テーブルにドライバのリストが設定されます。



(注) UCS-SCU はデフォルトでこのオプションを選択します。

## ネットワーク共有からのダウンロード

ネットワーク共有フォルダに格納されているドライバパッケージをダウンロードするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** ツールバーの [From Network Share] をクリックします。
- ネットワークが設定されていない場合や、ユーザの資格情報が入力されていない場合は、[Network Configuration] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークが設定されている場合や、ユーザの資格情報が入力されている場合は、[Network Location] ダイアログボックスが表示されます。ネットワークを設定する必要がある場合は、[ステップ 2](#)に進みます。ネットワークを設定する必要がない場合は、[ステップ 3](#)に進みます。
- ステップ 2** [Network Configuration] ダイアログボックスで、ネットワークを設定するには、IP アドレスを入力します。ネットワークの設定方法の詳細については、「[ネットワークの設定](#)」セクション(3-4ページ)を参照してください。
- ステップ 3** 表示された [Network Location] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- [User Name] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのログイン名を入力します。
  - [Password] フィールドに、ネットワーク ロケーションへのパスワードを入力します。
  - [Network Location] フィールドに、ドライバが格納されている zip フォルダのパス名を入力します。
  - [Connect] をクリックします。  
ファイル ダイアログボックスに、ドライバが格納されている zip フォルダの一覧が表示されます。
  - zip ファイルを選択します。
  - [Open] をクリックします。  
選択した zip ファイルが [Network Location] ダイアログボックスのパッケージ名として表示されます。
  - [OK] をクリックします。
- 進捗メッセージが表示され、[Choose Drivers to Install] テーブルにドライバのリストが設定されます。

## USB からのダウンロード

USB キーまたは USB ハード ドライブに保存されているドライバをダウンロードするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** ツールバーの [From USB] をクリックします。  
ファイル ダイアログボックスに USB のフォルダの一覧が表示されます。
- ステップ 2** ドライバが格納された zip ファイルを参照します。

ステップ 3 [OK] をクリックします。

進捗メッセージが表示され、[Choose Drivers to Install] テーブルにドライバのリストが設定されます。

## Linux Server Series オペレーティングシステムのインストール

Linux オペレーティングシステムを無人インストールするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 無人オペレーティングシステムインストールの機能エリアを開始するには、左側のナビゲーションペインで [OS Install] をクリックします。

[OS Install] ページが表示されます。

ステップ 2 [RHEL] オプションボタンをクリックし、[Operating System] ドロップダウンリストからオペレーティングシステムを選択します

[Default Settings] 領域と、[Quick Install] および [Custom Install] ボタンが表示されます。

ステップ 3 [Custom Install] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。新しい [OS Install] ページが、次の折りたたみ可能ウィンドウのリストとともに表示されます。

- [Basic Configuration] : パersonalize設定を実行するには、[基本設定 \(6-13 ページ\)](#) に進みます。
- [Installation Partitions] : インストールのパーティションを設定するには、[インストールパーティション \(6-8 ページ\)](#) に進みます。
- [Package Selection] : パッケージの選択を設定するには、[パッケージの選択 \(6-14 ページ\)](#) に進みます。
- [Network Settings] : ネットワークを設定するには、[ネットワーク設定 \(6-14 ページ\)](#) に進みます。
- [Installation Drivers] : ドライバを設定するには、[インストール ドライバ \(6-10 ページ\)](#) に進みます。

ステップ 4 [Install] をクリックします。

実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。[OS Install] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 5 [OK] をクリックします。

ステップ 6 UCS-SCU メディアを取り出し、必要なオペレーティングシステム CD を挿入します。

## 基本設定

基本的な設定を行うには、次の手順を実行します。

ステップ 1 [Basic Configuration] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

ステップ 2 [Basic Configuration] ウィンドウで、次を実行します。

- a. [Root Password] フィールドに、ルートパスワードを入力します。
- b. [Confirm Root Password] フィールドに、ルートパスワードを再入力します。

- c. [Default Language] ドロップダウン リストから、デフォルトの言語を選択します。
- d. [Keyboard] ドロップダウン リストから、キーボード レイアウトのタイプを選択します。
- e. [Time Zone] ドロップダウン リストから、時間帯を選択します。
- f. [Additional Languages] リストで、該当するすべての言語を選択します。

## パッケージの選択

パッケージの選択を設定するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 [Package Selection] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
- ステップ 2 該当するチェックボックスをすべてオンにします。

## ネットワーク設定

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

- ステップ 1 [Network Settings] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。  
[Network Settings] ウィンドウに、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、リンク ステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。
- ステップ 2 ネットワーク設定を編集するには、次を実行します。
  - a. ネットワーク インターフェイスを選択し、[Edit] をクリックします。  
[Network Settings] ダイアログ ボックスが表示されます。
  - b. [System Settings] ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。
    - [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。[Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。
      - [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します。
      - [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
      - [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
      - [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
    - [OK] をクリックします。

## SUSE Linux サーバ オペレーティングシステムのインストール

SLES オペレーティング システムの無人インストールを実行するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1 オペレーティング システムの無人インストールの機能エリアを開始するには、左側のナビゲーション ペインで [OS Install] をクリックします。  
[OS Install] ページが表示されます。

- ステップ 2** [SLES] オプション ボタンをクリックし、[Operating System] ドロップダウン リストからオペレーティングシステムを選択します。
- [Default Settings] 領域と、[Quick Install] および [Custom Install] ボタンが表示されます。
- ステップ 3** [Custom Install] をクリックします。
- 実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。新しい [OS Install] ページが、次の折りたたみ可能ウィンドウのリストとともに表示されます。
- [Basic Configuration] : パーソナライズ設定を実行するには、[基本設定 \(6-13 ページ\)](#)に進みます。
  - [Installation Partitions] : インストールのパーティションを設定するには、[インストールパーティション \(6-8 ページ\)](#)に進みます。
  - [Package Selection] : パッケージの選択を設定するには、[パッケージの選択 \(6-14 ページ\)](#)に進みます。
  - [Network Settings] : ネットワークを設定するには、[ネットワーク設定 \(6-14 ページ\)](#)に進みます。
  - [Installation Drivers] : ドライバを設定するには、[インストール ドライバ \(6-10 ページ\)](#)に進みます。
- ステップ 4** [Install] をクリックします。
- 実行中の作業と完了率を示す経過表示バーが表示されます。[OS Install] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 5** [OK] をクリックします。
- ステップ 6** UCS-SCU メディアを取り出し、必要なオペレーティングシステム CD を挿入します。
- 

## 基本設定

基本的な設定を行うには、次の手順を実行します。

---

- ステップ 1** [Basic Configuration] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
- ステップ 2** [Basic Configuration] ウィンドウで、次を実行します。
- [Root Password] フィールドに、ルートパスワードを入力します。
  - [Confirm Root Password] に、ルートパスワードを再入力します。
  - [Default Language] ドロップダウン リストから、デフォルトの言語を選択します。
  - [Keyboard] ドロップダウン リストから、キーボードレイアウトのタイプを選択します。
  - [Time Zone] ドロップダウン リストから、時間帯を選択します。
- 

## パッケージの選択

パッケージの選択を設定するには、次の手順を実行します。

---

- ステップ 1** [Package Selection] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。
- ステップ 2** 該当するチェックボックスをすべてオンにします。
-

## ネットワーク設定

ネットワーク設定を行うには、次の手順に従ってください。

---

**ステップ 1** [Network Settings] をクリックして、対応するウィンドウを開きます。

[Network Settings] ウィンドウに、使用できるネットワーク インターフェイスのリンク ステータスと、対応する IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、リンク ステータス、ベンダー、タイプ、および MAC アドレスが表示されます。

**ステップ 2** ネットワーク設定を編集するには、次を実行します。

**a.** ネットワーク インターフェイスを選択し、[Edit] をクリックします。

[Network Settings] ダイアログボックスが表示されます。

**b.** [System Settings] ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。

- [IP Address from DHCP server] または [Static IP Address] を選択します。[Static IP Address] を選択した場合は、次の手順を実行します。
    - [IP Address] フィールドに、IPv4 アドレスを入力します
    - [Subnet Mask] フィールドに、サブネットの IPv4 アドレスを入力します。
    - [Gateway] フィールドに、ゲートウェイ IPv4 アドレスを入力します。
    - [DNS] フィールドに、DNS の IPv4 アドレスを入力します。
  - [OK] をクリックします。
-